

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分医療総合専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務	医療情報	夜・通信	404時間 21単位	240時間 9単位	
	医療ビジネス	夜・通信	166時間 8単位	160時間 6単位	
	医療総合ビジネス	夜・通信	304時間 16単位	160時間 6単位	
	医療事務	夜・通信	266時間 14単位	80時間 3単位	
医療	歯科技工	夜・通信	330時間 13単位	160時間 6単位	
(備考) 医療情報学科は2、3年生が在籍。医療ビジネス学科は2年生が在籍。 医療総合学科は1年生が在籍。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8647
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分医療総合専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務	医療情報	夜・通信	404時間 21単位	240時間 9単位	
	医療ビジネス	夜・通信	166時間 8単位	160時間 6単位	
	医療総合ビジネス	夜・通信	304時間 16単位	160時間 6単位	
	医療事務	夜・通信	266時間 14単位	80時間 3単位	
医療	歯科技工	夜・通信	330時間 13単位	160時間 6単位	
(備考) 医療情報学科は2、3年生が在籍。医療ビジネス学科は2年生が在籍。 医療総合学科は1年生が在籍。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8647
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分医療総合専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	令和4年6月1日～ 令和5年3月31日	教育的助言
非常勤	元職員	令和4年6月1日～ 令和5年3月31日	運営的助言
(備考)			

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	I V Y大分医療総合専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成について</p> <p>実施する授業科目、及びその講座内容については、各学科職員会議にて、講座の実施状況や学生アンケートに基づき改善検討を行い、新年度教育課程の策定を行う。策定された教育課程に基づいて授業計画を立てる。尚、歯科技工学科については、歯科技工士養成所としての教育課程に基づいているので、修了後は、歯科技工士国家試験の受験資格を得ることができる。</p> <p>授業計画書（シラバス）については、「IVYシラバス作成ガイドライン」に従って、各教科担当教員が新年度前までに完成させる。様式 及び 記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法などを統一している。</p> <p>また、授業計画書（シラバス）は、新年度の入学式までに、学生に対してホームページ上で公表する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>IVY のホームページで公開</p> <p>https://www.ivy.ac.jp/?page_id=7693</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○授業科目に対する成績評価</p> <p>科目毎の評価方法は、授業計画書（シラバス）に記載した評価方法に基づいて行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じた総合評価とする。</p> <p>講義・演習科目については、講座終了時に期末試験を実施する。その試験結果及び学修状況（履修状況やレポート提出状況）等に基づいて評価を行う。</p> <p>また、実習実技科目においては、実習成果物及びその提出状況・実技試験及び学修状況などのいずれか、又はこれらを総合的にみて評価を行う。実習成果物で未提出のものがあれば、評価はしない。</p> <p>評価については、特に定めがない場合、100点を満点として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)の区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>○履修認定について</p> <p>各授業科目の授業時間数の80%以上の出席がなければ認定はしない。80%以上の出席を満たした者で、成績評価判定で合格した者に対し、履修認定を行う。</p> <p>尚、補習等において追加課題などの措置を実施し、条件を満たした時点で評価・履修認定を行う。また、補習等を実施しても、条件を満たさない場合は不合格とし、履修認定はされない。</p> <p>この内容については、学生便覧に記載するとともに、入学時のガイダンスにて説明を行う。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average : 成績指標値) を用いる。</p> <p>GPAは、成績評価のうち、Sは4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、Dは0点 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、履修科目の総単位数で除して算出する。</p> <p>GPAの学生及び保証人への通知は、学期GPA及び通算GPAを各学期における成績と併せて通知する。ただし、学生が保証人の同意を得て保証人への成績通知を不要とする場合には、この限りでない。</p> <p>本学卒業時の通算 GPA は、成績原簿に記録するものとする。</p> <p>また、同様の内容を学生便覧に記載し、学生への説明会を行うとともにホームページにて公開する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>学生便覧に記載するとともに、ホームページで公開する。</p> <p>https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8082</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

I V Yの教育目標は学生便覧にも記載しているように、次のようになっている。

○教育目標

1. 専門的最高の知識・技術を身につけること。
2. 専門的資格を取得すること。
3. 希望にかなった就職をすること。
4. 社会人としてのマナーを身につけること。

尚、専門的技術については、教育課程を展開する中で達成できるように指導し、社会性の側面については、日々の生活の中で達成できるように指導している。

以上のことを踏まえた卒業要件を設定し、卒業判定については以下のように規定を定め適切に実施している。

○卒業認定要件

学則に定めるように、以下の条件を満たした者を課程が修了したとして卒業認定する。

- ①修業年限以上在学していること。
- ②出席率が80%以上であること。
- ③3年課程においては2550時間以上の授業を受講し、93単位以上を取得すること。
- ④2年課程においては1700時間以上の授業を受講し、62単位以上を取得すること。
- ⑤1年課程においては800時間以上の授業を受講し、31単位以上を取得すること。
- ⑥所定の納付金が納められていること。

ただし、歯科技工学科は、歯科技工士養成所としての教育課程であるため、79単位を取得する必要がある。

○卒業認定手続き

担任が卒業要件の充足状況を確認し、卒業判定会議において協議し、学校長が判定を行う。

卒業要件を満たさない者については、補習等により要件が満たされた時点で学校長が再判定を行う。

○教育目標及び卒業認定基準の公表

学生便覧に記載し、全学生に配布する。また、入学時にガイダンスにて、新入生に対して説明を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧とI V Yのホームページで公開する。
https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8085

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I V Y大分医療総合専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には貸借対照表の写しを配付する
収支計算書又は損益計算書	https://www.ivy.ac.jp/?page_id=6585
財産目録	希望者には財産目録の写しを配付する
事業報告書	希望者には事業報告書の写しを配付する
監事による監査報告（書）	希望者には監査報告の写しを配付する

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

<医療情報学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療情報学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間 ／93 単位	831 単位時間/ 49 単位	1452 単位時間/ 69 単位	435 単位時間/ 13 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2718 単位時間／131 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		7人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどのIT技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2年次は、医療機関のシステムを扱うための医療知識を深める学習と、医療事務の学習を行う。その中で、医療事務技能検定や医療情報技師能力検定の資格試験を受験する。3年次は、各種の医療機関に対応した学習を行う。病院・クリニック関係では電子カルテ実習などを行い、医療コンピュータの操作方法を学ぶ。検定では診療報酬請求事務能力認定の資格を受験する。
成績評価の基準・方法
（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業認定基準： ①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
（概要） ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路

支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院、医療関連、IT関連企業			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、医療情報技師能力試験、医療事務技能検定、診療報酬請求事務能力認定試験、日商簿記検定、Microsoft Office Specialist (Word、Excel)			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

<医療ビジネス学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療ビジネス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間 ／62 単位	736 単位時間/ 39 単位	504 単位時間/ 24 単位	495 単位時間/ 14 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			1735 単位時間／77 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		10人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）1年次は、医療の基礎知識・コンピュータ操作技術・患者接遇を学ぶ。その中で、医療事務・調剤事務・介護事務、Word・Excel、秘書技能等の資格取得を目指す。2年次は、各種の医療機関に対応した学習を行う。病院・クリニック関係では電子カルテ実習などを行い、医療コンピュータの操作方法を学ぶ。検定では診療報酬請求事務能力認定の資格を受験する。調剤薬局関係では、医薬品に対する知識を深め、登録販売者の資格を受験する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）卒業認定基準： ①2年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が1700時間以上で、取得単位数が62単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>
学修支援等
<p>（概要） ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。</p>

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。
また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額20万円。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院、医療関連、薬局、一般企業			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等） 診療報酬請求事務能力認定試験、登録販売者試験、医療事務技能検定、調剤事務技能検定、 介護保険事務士、秘書技能検定、日商簿記検定、Microsoft Office Specialist (Word、Excel)			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	1人	3.4%
（中途退学の主な理由） 県外への就職を強く希望し、居住先が移転したため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<医療総合ビジネス学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療ビジネス学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間 ／62 単位	722 単位時間/ 41 単位	641 単位時間/ 30 単位	375 単位時間/ 11 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			1738 単位時間／82 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25 人		17 人	0 人	4 人	2 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）1年次は、医療の基礎知識・コンピュータ操作技術・患者接遇を学ぶ。その中で、医療事務・調剤事務・介護事務、Word・Excel、秘書技能等の資格取得を目指す。2年次は、各種の医療機関に対応した学習を行う。病院・クリニック関係では電子カルテ実習などを行い、医療コンピュータの操作方法を学ぶ。検定では診療報酬請求事務能力認定の資格を受験する。調剤薬局関係では、医薬品に対する知識を深め、登録販売者の資格を受験する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）卒業認定基準： ①2年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が1700時間以上で、取得単位数が62単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>
学修支援等
<p>（概要） ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。</p>

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。
また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等）			
（備考）（任意記載事項） 今年度、学科開設のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

<医療事務学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療事務学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	800 単位時間 ／31 単位	545 単位時間/ 33 単位	192 単位時間/ 9 単位	133 単位時間/ 4 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			870 単位時間／46 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		7人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）医療事務技術として、診療報酬請求の算定知識・医事コンピュータの操作実習・電子カルテ操作実習・コンピュータ操作技術・患者接遇を学ぶ。その中で、医療事務・Word・医療秘書等の資格取得を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業認定基準： ①1年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が800時間以上で、取得単位数が31単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等
（概要） ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を5万円免除する。 ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を5万円免除する。 ・指定校特待生C：入学願書提出時の申請により、授業料を5万円免除する。

・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 今年度、学科開設のため卒業生はいません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

< 歯科技工学科 >

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	歯科技工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1870 単位時間 ／79 単位	495 単位時間/ 33 単位	250 単位時間/ 13 単位	1125 単位時間/ 33 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			1870 単位時間／79 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70 人		62 人	0 人	7 人	7 人	14 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 厚生労働省より指定された歯科技工養成所としての教育課程を実施していく。 1年次は、歯科の基礎知識・法規・歯科技工・スポーツ歯学を学ぶ。各臨床技工に沿った講義を行い、各分野の実習を繰り返し学ぶことで技術や知識をスムーズに身に付ける。2年次は、デジタル技工や精度・審美性を追求する実践的な実習を行う。一步踏み込んだ技術や知識を習得することで、様々な症例に対応した技工物をつくる力を身に付ける。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) ①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 卒業認定基準： ①2年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が1870時間以上で、取得単位数が79単位であること。 ③学費を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が42単位であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。</p>
学修支援等
<p>(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p>

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人	15人 (100%)	0人
（主な就職、業界等） 歯科技工所、歯科医院			
（就職指導内容） マナー講座、臨地研修、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 歯科技工士免許、（一般）医療機器製造業責任技術者、介護口腔ケア推進士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	1人	1.9%
（中途退学の主な理由） 学業成績が著しく不良であるため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
医療情報学科	150,000 円	600,000 円	330,000 円	
医療ビジネス学科	150,000 円	550,000 円	280,000 円	
医療総合ビジネス学科	150,000 円	550,000 円	280,000 円	
医療事務学科	150,000 円	550,000 円	330,000 円	
歯科技工学科	200,000 円	650,000 円	380,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Y のホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8279		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>構成</p> <p>学校関係者評価委員は、インターンシップの受入れ及び就職支援の協力企業、協力機関から 4 名と卒業生から 1 名の 5 名で構成する。</p> <p>学校関係者評価委員に、①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守、⑩社会貢献・地域貢献の観点について、状況の説明や様々な取組み事項の説明と自己点検評価の説明をした後、各委員より、学校評価を提出してもらう。</p> <p>評価結果の活用</p> <p>項目毎に改善策を検討し、今年度または次年度の目標設定や取組みに反映する。</p> <p>具体的には、学科の取組みなどをメディアでアピールし、学科の活動内容を地域および入学希望者へ知ってもらう努力をする。また、マナーや接遇については、引き続き指導を続け、企業が求める社会人育成に取り組む。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
歯科技工所 代表取締役	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 3 1 日	企業委員
歯科技工所 代表取締役	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 3 1 日	企業委員
医療法人 事務長	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 3 1 日	企業委員
医療法人 事務長	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 3 1 日	企業委員
医療法人 職員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 3 1 日	企業委員・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Y のホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8295		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

I V Yのホームページ https://www.ivy.ac.jp
--